

議案一覧

第1号議案	令和4年度活動報告	P.1～
第2号議案	令和5年度活動計画	P.4～
第3号議案	国への要望書	P.8～
第4号議案	クルーズ船社への要望書	P.12～

第1号議案

令和4年度活動報告

1. 会議の運営に関する活動

総会（令和4年8月29日～9月5日 書面開催）

2. 要望・提言の実施

国土交通副大臣への要望書の手交（令和4年9月9日）

船会社へ要望書の提出（令和4年9月9日）

各関係省庁への要望書の提出（令和4年9月9日）

3. 研修クルーズの実施

(1) 研修クルーズ第1回

新造船「フェリーたかちほ」（宮崎カーフェリー株式会社）

令和4年5月12日～5月14日（2泊3日） 神戸～宮崎～神戸

(2) 研修クルーズ第2回

SEA SPICA（瀬戸内シーライン株式会社）

令和4年11月28日～11月29日（1泊2日）

広島グランドプリンスホテル～瀬戸内視察～広島港

令和4年度 活動報告(詳細)

3. 研修クルーズの実施

(1) 新造船「フェリーたかちほ」(宮崎カーフェリー株式会社)による研修クルーズ

- ・研修期間 令和4年5月12日～14日(3日間)
- ・寄港地 神戸(発)ー宮崎ー神戸(着)
- ・参加人数 22名(15団体)



フェリーたかちほ

【研修の主な内容】

- ・神戸港の概要説明、宮崎県の港湾概要説明、寄港地観光の視察(青島神社、飫肥城下町等)、港湾施設の視察(油津港)、船内セミナー等。
- ・邦船の外航クルーズ再開に向けた取り組みや、再開後の展望などを知ることができた。また、クルーズ客船もSDGsへの適合を目指しており、自然環境保護、船員の就業環境改善等、目先の利益だけではない、持続性を重視した経営方針を持っていることを理解した。
- ・各港の港湾施設の整備状況や寄港地観光、おもてなしの取り組みなどを直に学ぶことができた。

【研修の様子】



神戸港出港時 観覧車の見送りサイン



船内研修の様子



宮崎県の説明



油津港の説明



港湾施設見学(油津港)



寄港地観光(青島神社)

(2) スマートクルーズアカデミー10周年記念

SEA SPICA (瀬戸内シーライン株式会社) による瀬戸内研修クルーズ

- ・研修期間 令和4年11月28日、29日(2日間)
- ・寄港地 広島プリンスホテル棧橋(発着)
大崎下島、下蒲刈島、宇品(一部下船)
- ・参加人数 36名(13団体)



SEA SPICA

【研修の主な内容】

- ・クルーズアカデミーの10周年を振り返るシンポジウム、観光型高速クルーザー「SEA SPICA」での瀬戸内海や瀬戸内の島の視察、瀬戸内海で運航するラグジュアリー船の取り組み紹介をはじめとする船内セミナー等。
- ・「SEA SPICA」で、広島県呉市大崎下島御手洗港(江戸時代から港町として栄えた町並み、「乙女座」等)、下蒲刈島(「観瀾閣」「丸本家住宅」「蘭島閣美術館」等)に寄港、視察した。
- ・瀬戸内の島々に立ち寄って魅力を体感することができ、瀬戸内クルーズをPRするための良い経験となった。地元関係者による講演では、地域と連携・協力していきながら観光振興を進めることが重要だと学んだ。

【研修の様子】



スマートクルーズアカデミー10周年記念式典



広島港宇品出港風景



呉市長からの歓迎挨拶



船内からの瀬戸内の景色(音戸の瀬戸)



寄港地観光(御手洗)



参加者集合写真

第2号議案

令和5年度活動計画（案）

1. 会議の運営に関する活動

- (1) 幹事会（令和5年7月18日～21日）※書面にて開催
- (2) 総会（令和5年8月2日）

2. 船社との情報交換や、クルーズ市場に係る情報収集

- (1) 外国クルーズ船社等キーパーソンとの商談会への参加
- (2) シートレード・クルーズ・グローバルに関わる情報共有
- (3) 外国クルーズ船社またはエージェントに対するFAMトリップ

3. 研修クルーズの実施、企画、調整

- (1) 研修クルーズ第1回 MSCクルーズ「MSCベリッシマ」
(令和5年6月14日～6月18日)

令和5年度 活動計画(詳細)

2. 船社との情報交換や、クルーズ市場に係る情報収集

(1) 外国クルーズ船社等キーパーソンとの商談会への参加

【商談会の開催予定】

船社	開催日	場所	参加
セレブリティ・クルーズ	2023年7月14日	東京都	10港
	2023年8月3日(予定)	東京都	17港
キュナード・ライン	2023年8月7日(予定)	東京都	12港
プリンセス・クルーズ	未定	未定	未定

【商談会の開催実績（平成27年度以降）】（参考）

船社	開催日	場所	参加
MSC クルーズ	2015年12月1日	静岡市	6港
ポナン	2015年12月3日	青森市	6港
シルバーシー・クルーズ	2016年2月12日	下関市	17港
セレブリティ・クルーズ	2016年2月25日	京都市	6港
天海郵輪、カイサ郵輪	2016年10月19日	新潟市	6港
MSC クルーズ	2016年12月1日	名古屋市	8港
アザマラ・クラブ・クルーズ	2016年12月2日	函館市	12港
ポナン	2017年1月27日	仙台市	21港
キュナード・ライン	2017年2月23日	福岡市	15港
天海郵輪	2017年10月11日	敦賀市	4港
	2017年10月13日	京都市	8港
ノルウェー・クルーズ	2017年10月24日	和歌山市	3港
	2017年10月27日	四日市市	7港
ロイヤル・カリビアン・インターナショナル	2017年11月2日	敦賀市	8港
ホーランド・アメリカ・ライン	2018年1月18日	一関市	6港
	2018年1月19日	水戸市	10港
ポナン	2018年2月28日	鳥取市	11港
	2018年3月2日	徳島市	12港
シルバーシー・クルーズ	2018年10月31日	秋田市	8港
	2018年11月22日	仙台市	19港
MSC クルーズ	2019年1月9日	境港市	5港
	2019年1月10日	広島市	8港
クリスタル・クルーズ	2019年2月18日	広島市	8港
ポナン	2019年3月6日	鹿児島市	9港
	2019年3月7日	東京都	22港
ウィンドスタークルーズ	2019年3月13日	北九州市	19港
	2019年3月15日	別府市	9港
ロイヤル・カリビアン・インターナショナル	2019年9月17日	静岡市	2港
	2019年9月18日	大阪市	12港
キュナード・ライン	2020年1月14日	東京都	14港
	2020年1月17日	大阪市	18港

(2) シートレード・クルーズ・グローバルに係る情報共有

シートレード・クルーズ・グローバルに、ジャパングループとして共同出展し、日本全体の寄港地の魅力を発信する。

【開催予定】

見本市	開催日	場所	参加
Seatrade Cruise Global 2024	2024年(令和6年) 4月8日～11日	マイアミ・ビーチ・コンベンション・センター (米国)	未定

【過去の開催及び参加実績】

見本市	開催日	場所	参加
Cruise Shipping Miami 2013	2013年(平成25年) 3月12日～14日	マイアミ・ビーチ・コンベンション・センター (米国)	17 団体
Cruise Shipping Miami 2014	2014年(平成26年) 3月10日～13日	マイアミ・ビーチ・コンベンション・センター (米国)	18 団体
Cruise Shipping Miami 2015	2015年(平成27年) 3月16日～19日	マイアミ・ビーチ・コンベンション・センター (米国)	22 団体
Seatrade Cruise Global 2016	2016年(平成28年) 3月14日～17日	フォートローダーデール・ブロード・カウンティ・コンベンション・センター (米国)	21 団体
Seatrade Cruise Global 2017	2017年(平成29年) 3月13日～16日	フォートローダーデール・ブロード・カウンティ・コンベンション・センター (米国)	21 団体
Seatrade Cruise Global 2018	2018年(平成30年) 3月5日～8日	フォートローダーデール・ブロード・カウンティ・コンベンション・センター (米国)	18 団体
Seatrade Cruise Global 2019	2019年(平成31年) 4月9日～11日	マイアミ・ビーチ・コンベンション・センター (米国)	15 団体
Seatrade Cruise Virtual 2020	2020年(令和2年) 10月5日～8日	Web開催	
Seatrade Cruise Global 2021	2021年(令和3年) 9月27日～30日	マイアミ・ビーチ・コンベンション・センター (米国)	出展 見送り
Seatrade Cruise Global 2022	2022年(令和4年) 4月25日～28日	マイアミ・ビーチ・コンベンション・センター (米国)	出展 見送り
Seatrade Cruise Global 2023	令和5年 3月28日～30日	フォートローダーデール・ブロード・カウンティ・コンベンション・センター (米国)	16 団体

※シートレード・クルーズ・グローバル詳細については、下記 HP 参照。

<https://www.seatradecruiseglobal.com/en/home.html>

(3) 外国クルーズ船社またはエージェントによる寄港地のFAMトリップ

外国クルーズ船社のキーパーソンや有力なエージェント等を日本に招請し、寄港地観光情報を提供のうえ現地を視察いただくことで、訪日クルーズ商品への理解及び販売促進を促す。

3. 研修クルーズの実施、企画、調整

(1) 研修クルーズの企画・調整

令和5年度 研修クルーズの実施に向け、研修内容の企画及び調整を行った。スマートクルーズアカデミー、MSCクルーズにご協力いただき、全国クルーズ活性化会議の参加自治体職員を対象に、寄港地の視察、船内での講演聴講、港湾関係者との意見交換を行う「研修クルーズ」を実施。また、寄港地の会員が、施設の視察対応などに協力。

「MSC ベリッシマ」による研修クルーズ

- ・研修期間 令和5年6月14日～18日（5日間）
- ・寄港地 横浜(発)―神戸―広島
―濟州（韓国）―鹿児島―横浜(着)
(研修クルーズは神戸～鹿児島の間で実施)
- ・参加人数 15名（7団体）



MSCベリッシマ

【研修の主な内容】

- ・3年ぶりのクルーズ船での研修であった。港湾関係者、乗船客双方の視点で外航クルーズを体験し、各港の現状や課題を知り、対応策を共有する機会となった。寄港地で港湾施設や主な観光地を視察した。濟州島では、現地の観光セクションの方々と有意義な情報交換をすることができた。
- ・広島港(五日市地区、宇品地区、平和記念公園)、濟州(西帰浦クルーズターミナル、オルレ市場、カメラアヒル)、鹿児島港(マリポートかごしま)

【研修の様子】



オペレーションマネージャーによる講演



船内研修（各港のプレゼン）



広島港（五日市地区）



韓国・濟州島 西帰浦江汀クルーズ港



韓国・西帰浦市役所での交流会



鹿児島港の概要説明

第3号議案

我が国におけるクルーズの振興に向けた要望書

2020年の新型コロナウイルス感染症の影響でクルーズ船は世界的に運航中止となったが、本年3月、国際クルーズの受け入れが再開し、日本におけるクルーズマーケットも復調の兆しが見えている。

6月には、一部のクルーズ船社による中国発着クルーズが始まっており、来年度に向けてコロナ以前の状態まで回復することが予想される。

こうした状況の中で受け入れを進めている全国の港湾管理者は、今後ますます増加が見込まれるインバウンド需要に対応し、国策として観光立国を推進する観点から、寄港を通じた地域振興・経済活性化の取り組みや、寄港地における受入環境の整備等、様々な課題がある。

これらについて、各港湾管理者等だけで解決できないものが多く、官民一体の取組とともに、国等の関係機関による取組が是非とも必要なものと考えられる。クルーズ船の長期的かつ安定的な寄港の確保、さらには、世界に誇る国際クルーズ拠点のクルーズ形成を図るためには、ハード、ソフト両面からの支援が必要となる。

このため、各事項を実現されるよう、強く要望する。

記

1. 円滑なクルーズ旅客受入のためのC I Q体制の強化（C I Q関係省庁（特に、出入国在留管理庁）・国土交通省）

クルーズ再興に向け未知の感染症への対策も重要となるなど、クルーズ旅客受入のためのC I Q体制の強化が求められている。本年3月からの国際クルーズ運航再開をしていく中で、特に大きな課題となっているのが、入国審査等の手続きに時間を要し、クルーズ旅客の滞在時間を短縮してしまっていることである。

このため、入国手続きに関する審査手続きの効率化及び迅速化に向けた取組を強く要望する。特に、大型クルーズ船に対する効率化及び迅速化は喫緊の対応が求められている。また、クルーズ船における入国審査等の手続きの方針や基準について事前の情報提供を要望する。

国土交通省に対しては、C I Q所管省庁に対し、クルーズ船に関する円滑なC I Qの実施に向けて、協力要請することを要望する。

2. 地域経済効果の最大化に向けた支援（国土交通省）

寄港地観光の上質化を進め、クルーズ旅行者の寄港地での消費を高めていくことに加え、寄港地での地場産品等がクルーズ船に提供されることは、クルーズ船寄港の経済効果を高めるために重要である。

このため、上質な寄港地観光の造成促進及びクルーズ船に寄港地の地場産品を提供する仕組みづくりに対する支援を要望する。

3. クルーズ関連港湾施設と受入設備の充実に対する戦略的・重点的な予算の確保と整備の推進（国土交通省）

(1) 旅客船岸壁等の整備の推進

近年は離島への寄港も増えるなか、岸壁延長や水深の不足、港内の静穏度不足や防舷材等の岸壁施設の強度不足により安全に入港できない等、我が国の港湾施設及びそれを取り巻く環境は、必ずしも十分な施設が整ったものとなっていない。

クルーズ船社の入港要望に確実に応えていくため、早急な港湾施設の整備やクルーズ旅客の利便性・安全性を目的とした既存ターミナルの機能強化など、受入設備の充実が必要であり、港湾管理者の負担軽減につながる戦略的かつ重点的な予算確保を要望する。

(2) 訪日クルーズ旅客等の受入環境整備への支援

訪日クルーズ旅客の乗下船から寄港地観光に至るまでの円滑かつ快適な動線の確保及び旅客の満足度向上、地元での消費拡大による経済効果の最大化を図るため、Wi-Fi 整備やデジタルサイネージの整備に加え、観光資源の情報発信整備等に対する支援を要望する。

また、アフターコロナにおいて課題となっている、バスやタクシーなどの二次交通不足の解消に向けた支援を要望する。

4. 国内外へのクルーズプロモーションに対する支援（観光庁、日本政府観光局、国土交通省）

(1) 海外へのクルーズプロモーションに対する支援

海外へのクルーズプロモーションについては、これまでも観光庁及び日本政府観光局が訪日プロモーションの一環として実施されているところであるが、本年から本格的に国際クルーズが再開し、海外から注目を集めているこのタイミングで、コロナ禍以上に強力な訪日プロモーションを展開していくことが重要である。特に、個々の港がプロモーションするのではなく、日本の多様な寄港地の魅力をアピールし、日本へ多くのクルーズ船誘致を実現するため、各港が連携し、一体的なプロモーションを行うことが必要である。

このために、観光庁、日本政府観光局及び国土交通省が訪日クルーズプロモーションに資する予算を十分確保するとともに、観光立国推進の観点から、海外船社の招聘、シートレード・クルーズ・グローバルをはじめとする国際展示会への積極的な出展・日本への誘致など、訪日クルーズプロモーション活動の積極的な実施を要望する。

(2) 国内クルーズ人口拡大に対する支援

外国クルーズ会社により多くの外国クルーズ船を日本市場に配船してもらうためには、訪日クルーズ客を増やすだけでなく、日本のクルーズ人口が拡大することも重要である。

このため、幅広い世代の日本人にクルーズを楽しんでいただけるよう、クルーズ船社や旅行会社等が造成するクルーズ商品への支援を要望する。

5. 船舶航行安全対策に対する支援（国土交通省）

クルーズ船の大型化及び多様化に伴い、各港では安全に航行させるための入出港条件等の検討が必要となっており、専門知識を有する団体へ委託を必要とする場合が生じている。

クルーズ船の受入について、財政的な支援を含め、効率的かつ迅速に対応できる支援を行うとともに、全国で同じ船舶に関する航行安全等の検討をすることは効率

的ではないことから、国において、操船能力等を検討した結果について情報共有することを要望する。

令和5年8月

全国クルーズ活性化会議

会長 神戸市長 久元 喜造

第4号議案

我が国におけるクルーズ市場拡大に向けた要望書

2020年の新型コロナウイルス感染症の影響でクルーズ船は世界的に運航中止となったが、本年3月、国際クルーズの受け入れが再開し、我が国におけるクルーズマーケットも復調の兆しが見えている。

国際クルーズを含む本格的なクルーズ再開を見据え、寄港を通じた地域振興・経済の活性化の取り組みも必要である。

このような背景において、日本全体でのクルーズ振興・クルーズ市場の拡大に向けて、クルーズ船社に対し、全国クルーズ活性化会議として、以下のとおり要望する。

記

1. 地域経済効果の最大化に向けた寄港地観光の質の向上

寄港地観光の上質化を進め、クルーズ旅行者の寄港地での消費を高めていくことに加え、寄港地での地場産品等がクルーズ船に提供されることは、クルーズ船寄港の経済効果を高めるために重要である。

そこで、地元旅行業者や観光資源等を十分に活用し、寄港地と連携することで、内陸部を含めた広域に及ぶ上質な寄港地観光の造成や、船内で提供される地元食材の調達など、地域経済効果の最大化に向けた仕組みづくりを要望する。

2. 寄港地の多様化

日本におけるクルーズ市場拡大、ひいては日本のクルーズ人口の増加に向けては、クルーズ商品の多様化やリピーターを確保することが必須であることから、既存の寄港地だけでなく新たな寄港地を含んだクルーズ周遊ルート等の開拓を要望する。

また、内陸部を含む広域に及ぶ寄港地観光が可能となる十分な停泊時間を有したクルーズ行程とすることを要望する。

3. 適切な予約申請

複数港に予約を行い、寄港直前においてキャンセル手続きを行うことは、他船社の寄港機会の損失につながり、ひいては我が国のクルーズ市場の発展に影響を与えることになるため、適切な時期に確実な予約申請を行うことを要望する。

4. 受入施設の利用に関する理解

クルーズ市場が拡大し、一部ではそれに伴うクルーズ受入施設の整備も進んでおり、これら施設に関連する管理・運営サービス等の費用について、新たな負担が発生することになる。

新たな受入施設の整備や、シャトルバスの配車など、乗船客へのサービス向上を図ることは、寄港地だけではなく、クルーズ産業が持続的に発展することにも繋がることから、施設利用等に関連する適切な費用負担について、理解していただくことを要望する。

5. 船社から地元自治体に対する情報提供

オフィシャルツアー、乗船客や乗組員情報、など、円滑かつ安全な受入にあたり必要な情報が寄港直前にならないと入手できないことから、結果として観光地などの受入体制が不十分となる実態がある。

確実な受入体制を確保し、乗船客や乗組員に向けた各寄港地での満足度の高い観光情報を提供することにより地域への経済効果を最大限発揮するため、寄港予定や関連する情報、船内で提供している観光情報の内容を可能な限り早急に提供することを要望する。

6. 船内での地元観光情報の提供機会等の確保

寄港地到着前の船内での観光情報が、十分に提供できていない現状がある。

乗船客にとって、より満足度の高い観光情報を提供するために、クルーズ船社と地元やその周辺地域との間で意見交換の場を設けるとともに、充実した観光情報の発信を可能とする船内での情報提供機会の確保を要望する。

7. 安全・安心の確保に向けた対策

クルーズ船の寄港に対して地域住民が安心してクルーズ船の寄港を歓迎できるよう、未知の感染症の発生等、非常時の迅速な対応に備え、寄港前または寄港中において、港湾管理者と緊密な連絡体制の構築を要望する。

令和5年8月

全国クルーズ活性化会議

会長 神戸市長 久元 喜造